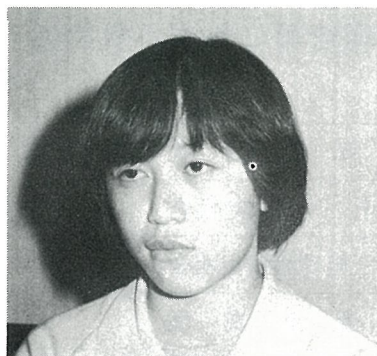


平山さんに優秀賞

国際児童年記念「少年の主張大会」



国際児童年（昭和五十四年）は、すべての国のお友だちがりっぱな大人に成長するように設けられたものです。

この国際児童年を記念して「少年の主張」大会が千葉市で開催され、当町から光中学校三年生の平山みどりさんが参加し優秀賞に輝きました。

辻チーム二連覇なるか!!

第十三回町内駅伝大会出場チーム募集

恒例の町内駅伝大会が光町マラソンコース（一四・八km）で行われます。

役場をスタートし、県道（旧役場前）を白浜に南下し、県道飯岡、一宮線から尾垂五区を通り、光五号線（通学路）を篠原、入、古屋と北上し役場ゴールで熱戦が繰り広げられます。

中学生は六区間、一般五区間です。

大会要項は、次のとおりです。

- 一、日 時
- 二月十日(日)
- 集合 午前九時
- 開会式 午前十時
- 発走 午前十時三十分
- 二、伴走
- 一切禁止する。(違反したチームは失格とする。)
- 三、タスキ・ゼッケン
- 大会本部で用意したものを使用する。
- 四、選手配置

本部で配置。(自チームの送迎は認めない。)

五、チーム編成

町内に居住するもの及び勤務者に限る。

- (イ) 中学の部 六名 補欠一名
- (ロ) 一般の部 五名 補欠一名
- 但し、一般の部は高校生以上とし高校生は、一チーム二名以内とする。
- 六、申込み切日・申込み先
- 一月三十一日 公民館事務局
- くわしくは、公民館まで問い合わせください。
- (旬) 三〇五—〇一
- (電) (四) 一三五八

テニスを続けて

二年前の春、中学入学と同時に私はテニス部に入部しました。小学校の時に読んでたテニスマンガにあこがれて、なんの目的もたずになんか軽い気持ちで入部してしまっただけです。

一年の時のクラブは、何をやってもつらいものでした。特にじゅうなんは、本当にたおれる寸前までやりました。腹筋、懸垂、ダッシュ、

無二の一球なり!!

平山みどり

うさぎとび——。終わった時には、たてない日が何日も続きました。

中でも、夏の暑い盛りの練習は忘れられません。太陽がじりじり照りつける下で、二時間近くも素ぶりをやらされました。

何度となく、みんなで泣きながらクラブをやめようと話したものでした。

一年の後半になって、二年の先輩とコートの中でボールを打つ練習ができるようになったのです。

あの時、ラケットの面に始め

て当たったボールの感触は、まだ腕の中に残っているような気がするんです。

二年に進級して、いよいよ十人その後輩ができました。そうです。新入部員がはいつてきたのです。まるで一年前の自分を見てみたいでした。

「先輩」という言葉が、ちょっとぴりくすぐったく感じました。

暇をみつけては素ぶりをして、自分のフォームというものをつかみかけたと思ったら、先輩方が引退する時期になってしまいました。

いざその時が来てみると、自分達だけで後輩を、クラブを引

つばっていかなくてはならないかと思うと、とても心細くてどうしようもない気持ちでした。でも、みんな協力してがんばりました。

略——

中学最後の試合だった支部大会も無事終わりました。

今、思い出されるのは、試合のことも、思い切りコートでボールを追ったことでもなく、あの一年の時のつらい素ぶりやじゅうなんをやった時のことです。本当につらい練習でしたが今思うと、あの時が一番充実していたような気がします。

テニスを始めて二年と四ヶ月。

私は、次の言葉を信条としてがんばってきました。

「この一球は、無二の一球なり」

この言葉が大好きです。

本当に、一度打ってしまったボールは、二度と打つことができません。私は、今まで一球一球に全神経を集中して、少しでもいいプレーをしたいと思ってきました。これからはずっと思い続けていきます。

本当にテニスを始めてよかったです。今つくづくこの感じをかみしめています。